

日本における BL ドラマの拡大と浸透

Expansion and Penetration of BL TV Dramas in Japan

若松 孝司

WAKAMATSU Takashi

Abstract

While many people are restricted from going out due to the pandemic of the new coronavirus infection, a BL(boy's love) drama, "2gether" broadcasted in Thailand in 2020 attracted worldwide attention and was broadcasted in Japan the following year. Since then, many Thai BL TV drama have been introduced to Japan, and some TV stations in Japan have set up broadcast slots for BL TV dramas. And now, it is showing the appearance of "BL boom".

This paper examines the acceptance of BL works and sexual minorities in Japanese society by focusing on Japan TV dramas about sexual minorities (mainly male homosexuals).

1. 本稿のねらいと「BL」(ボーイズラブ)

1. 1 本稿のねらい

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大で多くの人々が外出を制限されている中、2020年にタイで放送された「2gether」が世界的な注目を集め、日本でも翌年に地上波で放送された¹。その後、多くのタイのBLテレビドラマ作品が国内に紹介され、日本のテレビ局もBLテレビドラマの放送枠を設定して²多くのBL作品を放送するなど、現在は「BLブーム」の様相を呈している。

雑誌「MARCO POLO」が「普段着のゲイ。」と題した特集を組んだのは1994年であった³。テレビの中の道化者のイメージしかなかった男性同性愛者が、身近でリアルな存在であるという認識が共有され始めていた。そのころ、男性同性愛をテーマにした女性向けの作品が「ボーイズラブ(BL)」と呼ばれるようになり、それまで一部の少女向け漫画雑誌を中心に作品が紹介されていたのに加えて、1992年には角川書店の新たなレーベル「角川ルビー文庫」から多くのBL作品が提供されるようになるなど、BL作品を提供する幅が広がるようになった。さらに2000年代になると2008年に放送されたテレビアニメ『純情ロマンチカ』が好評を博して多くのBLアニメ作品が放送されるようになり、さらに、おもに映画を中心に『BOYS LOVE』シリーズや『タクミくんシリーズ』といった実写映像が制作されるようになった。

コミックや文庫、映画はいずれも興味関心を有している特定の層が主たる対象となるが、テレビドラマは幅広い視聴者層を前提としている。そのため本稿では、BLもしくは性的マイノリティ(主に男性同性愛者)の恋愛を主題とした日本のテレビドラマを取り上げ、BL作品お

よび性的マイノリティに対する日本社会の受容度を検証したい。

1. 2 BL (ボーイズラブ)

本稿で扱う BL (ボーイズラブ: 和製英語) は、男性同性愛を題材とした小説や漫画などのジャンルを指す用語である。かつて男性同士、そのなかでもとくに少年同士の同性愛を扱う作品は「耽美」と呼ばれていた。1978年にサン出版より「COMIC JUN」として創刊された「JUNE」は小説やマンガ、イラストだけでなく、映画、音楽などを幅広く取り上げ、大きな影響力を持つようになった。そのため「耽美」は「JUNE」「JUNE系」と呼ばれるようになった⁴。

また、マンガ同人誌の世界からは「やおい」と呼ばれる言葉も使われている。「やおい」とは、男性同性愛を題材にした女性向けの漫画や小説などの俗称、また、それらを愛好する人や、作中での同性愛的な関係が好まれる現象の総体を指す。語源は「ヤマなし」「オチなし」「意味なし」の頭文字をつなげたものであるとされ、1979年12月20日発行の波津彬子責任編集の同人誌『らっぱり』の「やおい特集号」で初めて用いられた言葉であるという。「やおい」とは一般に以下のような意味で用いられることが多い⁵。

1. 初期における同人作品一般における物語性に乏しい漫画や小説などの創作物
2. 既存の漫画やアニメの男性キャラクター2人を取り上げ、その2人が友情関係以上にあるという二次創作作品
3. 一部で、性描写がとくに激しい作品
4. 広義に、女性向け男性同性愛作品一般

「やおい」という概念の誕生とその普及は、「耽美」のようなシリアスな作風以外のパロディ一色の強い作品を示すものとして男性同性愛をテーマにした作品への認識の拡大と作品の浸透に寄与したと考えられるが、もともと同人誌の世界で使用され始めた用語であり、基本的に上記2.の二次創作作品の中で男性同性愛を取り扱うものというイメージが強かったために一般の商業誌への展開は望めなかった。ただ、二次創作の持つパロディー性の影響により、一般の商業誌には以前の「耽美」にみられた悲劇性の枠にとらわれない、コメディやロマンス、アクションといった要素の強い作品がみられるようになった(東宮千子(1986)「明るい青少年のための恋愛」、那州雪絵(1986)「ここはグリーンウッド」など)。

1991年12月に創刊された「イマージュ」(白夜書房)の創刊号表紙に「BOY'S LOVE COMIC」と付されたのが現在の BL (ボーイズラブ) の最初であり、1994年に漫画情報誌「ぱふ」がボーイズラブ特集を組んだのが、「ボーイズラブ」をこのジャンルを表す言葉として使用した最初の例であるとされている⁶。1995年までに創刊された BL 商業誌は約30タイトルにものぼり、「美」「悲劇性」をイメージさせる「耽美」や「二次創作」のイメージが強い「やおい」という概念にとらわれず、オリジナル作品を自由に発表できる状況がととのったといえる。その当時のストーリーの特徴は現代日本の学校や会社といったごく一般的なありふれた世界を舞台として、男性同士の登場人物による恋愛やセックスが展開され、ハッピーエンドを迎えるというも

のであった。こうして「ボーイズラブ (BL)」は「男性同性愛を題材とした小説や漫画などのジャンルを指す用語」として「耽美」や「やおい」を含むものとして広く使用されるようになった。

なお、1999 年ごろには男性同士の同性愛を扱った「やおい」、特に「ボーイズラブ」などの創作物を好む女性 (女子) を指す言葉として「腐女子」がネット上で使用され、2005 年ごろから一般にも認知されるようになっていく。「腐女子」が認知されることで、男性同性愛を題材にした作品やその愛好者のイメージを刷新することに一役買ったとされている⁷。

2. 映像作品としての BL の展開

2. 1 やおいから BL 実写化

「JUNE」に代表される「耽美」や「やおい」は雑誌や単行本、同人誌といった活字メディアを中心に展開されてきた。男性同性愛者が登場する映画やテレビドラマ、アニメの作品は皆無ではないにせよごくわずかであり、それが物語の主題とされることはなかった。そのなかで 1982 年に放送されたテレビアニメ『パタリロ』⁸は主要キャラクターの一人に同性愛者 (バンコラン) が描かれ、一般向けの映像作品で同性愛 (BL) が描かれたものでは最初と考えられている。また、オリジナル・ビデオ・アニメ (OVA) では、1987 年に『風と木の詩 SANCTUS 一聖なるかな』⁹がリリースされ、1988 年には「カセット JUNE」¹⁰が発売されるなど、1980 年代以降は雑誌や書籍といった形態にとどまらない展開が見られている。

同性愛を主題として描いた映像作品はいわゆる「ゲイブーム」の時期、1992 年に公開された『おこげ』¹¹『きらきらひかる』¹²と 1993 年に公開された『二十歳の微熱』¹³などを挙げることができるが、BL としての実写作品は、2006 年に公開された『BOYS LOVE』¹⁴が最初と考えられている。本作は DVD での発売のみであったが、翌年には映画『BOYS LOVE 劇場版』¹⁵が設定を変えながらも同じ主演・監督で公開された。また、2007 年からごとうしのぶ原作の BL 小説を実写化した『タクミくんシリーズ』¹⁶が 2012 年にかけて 5 作品公開されている。なお、これ以前に 2001 年に放送されたテレビドラマ『アンティーク～西洋骨董洋菓子店～』¹⁷は、原作漫画で描かれていた主要キャラクターのゲイ設定が異性愛者へと変更されている。

この後、実写映画としては、2008 年に『体育館ベイビー』¹⁸、『《a》 symmetry アシンメトリー』¹⁹、『夏休みのような 1 ヶ月』²⁰の 3 作品が、2010 年に『純情』²¹、『愛の言霊～世界の果てまで～』²²、2012 年には秋月こお原作の『富士見二丁目交響楽団シリーズ 寒冷前線コンダクター』²³が公開されているが、「富士見二丁目交響楽団」は少女漫画をベースとした作品であり、商業 BL という市場が未成熟であったと言える。この後も、2014 年には『どっちもどっち フェロモン系モテ男 VS インテリド S 王子』²⁴(ビデオ発売のみ)、『どうしても触れたくない』²⁵、2015 年には『セブンデイズ MONDAY→THURSDAY』²⁶、『宇田川町で待っててよ。』²⁷、『漫画実写化 飴とキス』²⁸(ビデオ発売のみ)、2017 年には『ひだまりが聴こえる』²⁹、『ダブルミーツ』³⁰が公開されるなど、BL 作品の制作が目立つようになってきた。2018 年には日高ショー

コ原作の『花は咲くか』³¹が公開されたほか、丸木戸マキ原作のドラマ『ポルノグラファー』³²が放送された。この『ポルノグラファー』は翌年に続編『ポルノグラファー～インディゴの気分～』³³が放送され、2021年には映画『劇場版ポルノグラファー～プレイバック～』³⁴が公開されるなど、興行的にも注目される成果を上げた。

2. 2 BLブーム

現在のBLブームのきっかけとなったのが2018年に放送された『おっさんずラブ』³⁵である。本作品は2016年に単発ドラマとして放送されたもの³⁶の連続ドラマ化であったが、本作品は翌年（2019年）に一部出演者を変更して続編『おっさんずラブ-in the sky-』³⁷が放送され、2020年には映画化された（『劇場版 おっさんずラブ～LOVE or DEAD～』³⁸）。さらに、本作品は香港で『大叔的愛』³⁹としてリメイクされ、2021年に放送された。これ以前のBL漫画原作の実写化作品は、少女漫画をベースとした、一部の女性読者・視聴者層を中心としたものであったが、本作品には多くの男性視聴・鑑賞者が認められたことから、BLの大衆化をもたらしたと評される⁴⁰。

この『おっさんずラブ』の興行的成功以降、BL作品が映画のみならずテレビドラマで多く制作されることとなった。テレビドラマについては次節で触れるが、実写映画だけでも、名古屋テレビ（メ〜テレ）が2019年にドラマ化した作品⁴¹の続編『his〜』⁴²が2020年に公開され、この年には『性の劇薬』⁴³、『リスタートはただいまのあとで』⁴⁴、『窮鼠はチーズの夢を見る』⁴⁵、『Life：線上の僕ら ディレクターズカット版』⁴⁶、『LOVE STAGE!!』⁴⁷も公開されている。『LOVE STAGE!!』は、2020年にアニメ化された作品の実写版であり、2022年7月にはタイで実写ドラマ化されることが発表されている。

さらに、2019年にテレビ東京で放送された『きのう何食べた？』⁴⁸の劇場版『劇場版 きのう何食べた？』⁴⁹が2021年に公開され、2019年にアニメシリーズが放送されたキヅナツキ原作の『ギヴン』⁵⁰は2020年にアニメ劇場版公開⁵¹、2021年にフジテレビ系のFODで配信された後に放送されている⁵²。

2020年にテレビ東京で放送された豊田悠原作のドラマ『30歳で童貞だと魔法使いになれるらしい』の劇場版『チェリまほ THE MOVIE ～30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい～』⁵³が2022年に公開され、2022年11月にはタイのGMMTVにより『CHERRY MAGIC 30 ๓๐๓』としてリメイクされた作品が制作されることが発表された。

2021年には、単発ドラマ『絶対BLになる世界 VS 絶対BLになりたくない男』⁵⁴や連続ドラマ『消えた初恋』⁵⁵など、複数の作品が放送される中、毎日放送で放送された風良ゆう原作の『美しい彼』⁵⁶は、日本国内にとどまらない反響を得て2023年に劇場版『劇場版 美しい彼 エターナル』⁵⁷が公開されることになっている。また2022年には、熊坂出原作の『恋い焦れ歌え』⁵⁸も公開されている。

ここまで、実写映像化された作品のうち、映画館で上映されたものと一部ビデオ（DVD）のみで公開されたものを概観してきたが、2018年以降は地上波ドラマの劇場版公開が数多くみら

れ、そこで出演している俳優もまた、2018年以前に多く見られたアニメや2.5次元の舞台を軸に活動している俳優から一般的な視聴者、観客に向けたキャスティングがなされるようになってきている。とはいえ、劇場版のもととなった BL ドラマが深夜枠や関東や関西の一部地域での深夜枠の放送にとどまっているという点はそれ以前と大きく変わっていない。そこに現在の BL ブームの広がりや欠如を見て取ることができよう。

3. BL テレビドラマの傾向

3. 1 一般向け作品としてのテレビドラマ

前節で検討した BL の実写映像作品は主に映画であり、積極的にその作品を受け入れようとする、限られた視聴者層に向けた作品であった。一方、テレビドラマは視聴のためのハードルが低く、より幅広い視聴者に向けて制作・放送される。そのため、テレビドラマにおいてはボーイズラブの性的な表現は穏やかなものにとどまり、取り上げるテーマもまた多くの人々に受け入れられやすいものに限られるが、逆に言えば、テレビドラマへの BL 浸透度が、社会の BL 受容度を測る物差しとなるともいえよう。そこで本節では、BL テレビドラマの状況を概観する（以下、次ページの表参照）。

3. 2 『おっさんずラブ』のヒット前後

幅広い視聴者層に向けたテレビドラマ・シリーズとして最初に同性愛者の恋愛関係を主題とした作品は、1993年に日本テレビで放送された『同窓会』であったといわれる。これは同じ高校の卒業生とその周囲の人物の関係を描いた作品であり、同時期に主人公を密かに恋する同性愛者が登場した『あすなる白書』⁵⁹が放送されたため、1990年代初頭の第1次ゲイブームを代表する作品とされる。その後、同性愛を主題とするドラマは1999年の『ロマンス』など限られたものであったが、2001年放送の『3年B組金八先生（第6シリーズ）』では性同一性障害の生徒がドラマのカギを握る存在として登場していた。

2006-2007年ごろから実写映画でいくつかの BL 作品が公開され、シリーズ化されることでテレビドラマにも同性愛を取り上げる作品が多くみられるようになった。2007年にはテレビ東京で『恋愛診断 ボーイズラブ』が単発ドラマで放送され、2008年のフジテレビ『ラスト・フレンズ』は主人公が性同一性障害という設定であった。2008年のテレビ東京『ママはニューハーフ』はニューハーフとして暮らす主人公と元恋人の息子との関係を描き、2009年の WOWOW『ママは昔パパだった』では女性として生きる男性の姿を描いている。2011年のテレビ東京『IS～男でも女でもない性～』はインターセクシュアルが直面する課題を取り上げ、2013年のBSジャパン『佐藤家の朝食、鈴木家の夕食』では男性同士、女性同士の夫婦に生まれた子どもが抱える悩みを主題としている。その後も、2015年の日本テレビ『偽装の夫婦』はゲイの男性と元恋人の女性との偽装結婚を、2017年の WOWOW『片想い』は性同一性障害の苦悩を描き、2018年のNHK『弟の夫』は亡き弟の恋人（男性）と兄家族との関係を描いている。このように2010

愛知淑徳大学論集—交流文化学部篇— 第13号

表：日本のBLテレビドラマ			
放送年月	放送局	タイトル	備考
1993.10	日本テレビ	同窓会	男性同性愛やバイセクシュアルを主なテーマとして同窓会に集まったメンバーの人間模様を描く
1999.04	よみうりテレビ	ロマンス	故郷で再会した幼馴染同士における同性愛感情を描いた作品
2001.10	TBS	3年B組金八先生 (第6シリーズ)	性同一性障害の生徒をめぐるクラスメイトの対応
2007.07	テレビ東京	恋愛診断 ボーイズラブ「翼のカケラ」 「運命のコードウ」	美大生の三角関係と医師と少年の悲劇の恋の2話 (深夜枠オムニバスドラマ)
2008.04	フジテレビ	ラスト・フレンズ	DVやセックス恐怖症、性同一性障害などのさまざまな問題を真正面から捉えた作品
2008.10	フジテレビ	イノセント・ラブ	女性主人公の恋人 (男性) を密かに思う男性同性愛者 (ラスト・フレンズのスタッフによる制作)
2009.04	テレビ東京	ママはニューハーフ	一流企業に勤めながらニューハーフバーNo1。そんな彼の元に以前の恋人の息子がやってくる。
2009.08	wowow	ママは昔パパだった	「昔パパだったママ」が、母として、女性として、ひとりの人間として強く生きる姿
2011.07	テレビ東京	IS～男でも女でもない性～	インターセクシュアルな身体的特徴を持つ人々を主人公に、心の動きや周囲を取り巻く環境を描く
2013.01	BSジャパン	佐藤家の朝食、鈴木家の夕食	2人の母と共に暮らす主人公の自宅の向かいに、父2人と共に暮らす少女が引っ越してきた
2015.10	日本テレビ	偽装の夫婦	独身を決意した女性が同級生でゲイの男性と偽装結婚をする
2016.12	テレビ朝日	年の瀬 恋愛ドラマ第3夜 おっさんずラブ	単発ドラマ。不動産会社を舞台にしたラブコメディ
2017.10	wowow	片想い	性同一性障害で苦しむ男女や、いわゆるオネエ、半陰陽の陸上選手などが登場
2018.01	NHK	女性的生活	女性だが実は男性で女性が恋愛対象というトランスジェンダーのOL
2018.01	フジテレビ	隣の家族は青く見える	「子供が欲しいカップル」「子供を作らないカップル」「男性同士のカップル」「幸せを羨む夫婦」
2018.03	NHK	弟の夫	小学生の娘と2人で暮らす男親とその弟の結婚相手であったカナダ人男性が織りなすホームドラマ
2018.04	NHK	半分、青い。	主人公の同僚役として、売れっ子少女漫画家のアシスタントを務めている美青年のゲイ
2018.04	テレビ朝日	おっさんずラブ	単発ドラマの連続ドラマ化。BL作品が (実写ドラマで) メジャー化するきっかけとなった作品
2018.08	フジテレビ	ボルノグラファー	大学生が官能小説家の腕を自転車事故で骨折させた代償に口述筆記を引き受ける
2019.04	日本テレビ	俺のスカート、どこ行った?	52歳のゲイで女装家の高校教師の活躍を描いた学園ドラマ
2019.04	メ〜テレ	his～恋するつもりなんてなかった～	単身赴任中の父が暮らす江ノ島に来た男子高校生が一人暮らしをする男子高校生と出会う
2019.04	NHK	腐女子、うっかりゲイに告る。	同性愛者であることを隠して生活する男子高校生とBLを好む腐女子の同級生の恋愛模様
2019.04	テレビ東京	きのう何食べた?	几帳面な弁護士と人当たりの良い美容師が暮らす毎日を食生活メインに描いた物語
2019.07	フジテレビ	ボルノグラファー～インディゴの気分～	官能小説家と担当編集者との若年時代を描いた物語
2019.11	テレビ朝日	おっさんずラブ-in the sky-	前作の不動産会社から、航空会社へと舞台の設定を変更
2020.03	NHK	三浦部長、本日付けで女性になります。	40代で「女性になりたい」と思った、ある総務部長の波瀾万丈の物語
2020.05	NHK	黒い画集～証言～	松本清張の名作短編『証言』をBLバージョンでリメイクした作品
2020.08	TOKYO MX	俺が僕に恋した理由	エリート数学教師がハートの熱い副担任の体育教師と恋に落ちる
2020.10	テレビ東京	30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい	恋愛経験がない主人公が「触れた人の心が読める」という能力を得るラブコメディ (第7話はTwitterで世界トレンド5位)
2020.12	TOKYO MX	俺が僕に恋した理由 (年末スペシャル)	若手弁護士と依頼人との間の恋愛
2021.02	ホームドラマチャンネル	Life 線上の僕ら	「線上遊び」を通して知り合った男子高校生同士の高校から社会人になるまでを描いた物語
2021.03	テレ朝チャンネル1	絶対BLになる世界 VS 絶対BLになりたくない男	登場人物たちが必ずBLになってしまう世界
2021.04	TOKYO MX	俺が僕に恋した理由 SEASON 2	法律事務所に勤める新人弁護士と若手弁護士との恋模様
2021.07	フジテレビ	ギヴン	ロックバンドのメンバーの青春群像劇
2021.10	フジテレビ	消えた初恋	勘違いからはじまる男子高校生の恋と友情
2021.11	毎日放送	美しい彼	クラスの最底辺で友達もない高校生と学校のカーストの頂点の男子生徒とが織り成す恋愛感情
2022.01	NHK	恋せぬふたり	他者に恋愛感情も性的欲求も抱かないアロマンティック・アセクシュアルの男女が始めた同居生活
2022.03	カンテレ	僕もアイツも新郎です。	小学校教師とレモン農家のゲイカップルの結婚式における家族や親族の反応 (単発ドラマ)
2022.04	毎日放送	不幸くんはキスするしかない! (ドラマシャワー)	何をしても不運に見舞われる大学生と幸運体質の同級生
2022.05	フジテレビ	腐男子バーテンダーの嗜み	「隠れオタクの腐男子」であるバーテンダーの客同士の恋愛についての妄想
2022.06	毎日放送	先輩、断じて恋では! (ドラマシャワー)	CG制作会社の優秀なCGデザイナーとその担当となった新人社員
2022.06	フジテレビ	オールドファッションカップケーキ	20代の部下ともうすぐ40歳の上司との関係
2022.07	NHK	プリズム	男性同性愛者との偽装結婚を考える独身女性
2022.07	テレビ東京	みなと商事コインランドリー	祖父からコインランドリーの管理者を継いだアラサーと高校生
2022.08	毎日放送	高良くんと天城くん (ドラマシャワー)	明るさが取り柄の高校生と同じクラスの二軍男子の関係
2022.10	ABCテレビ	聖サー一人作家の猫屋敷くんは承認欲求をこじらせている	承認欲求の強い同人作家と幼馴染で天真爛漫な“コミュカオバケ”のキラキラアイドルの恋愛
2022.10	毎日放送	永遠の昨日 (ドラマシャワー)	交通事故に遭い「生きている死体」となった主人公が消えてしまうまで
2022.11	NHK	作りたい女と食べたい女	同じマンションに住む「作りたい女」と「食べたい女」の間のセクシュアリティや生きがい
2022.12	毎日放送	絵色バラドックス (ドラマシャワー)	出版社の雑誌記者とカメラマンとの同僚間の恋
2022.12	TOKYO MX	俺が僕に恋した理由 スペシャルドラマ2022	元高校教師の弁護士と元教え子のクライアントとの関係を描く
2023.01	ABCテレビ	僕らのミクロな終末	巨大隕石の落下により地球滅亡まで残り10日の世界で恋の痛みを抱える男2人が惹かれ合う
2023.02	毎日放送	美しい彼 season2	第1シリーズで紆余曲折の末、恋人同士となった二人の同棲生活
2023.02	毎日放送	ジャックフロスト (ドラマシャワー)	別れ話の直後に事故によって記憶を失った恋人と再び関係を構築しようとする

筆者作成

年代までのテレビドラマでは、多くが同性愛者同士の恋愛を描くいわゆる BL ではなく、同性愛者の抱える苦悩やその周囲の対応が主題となっていた。

2018年4月期に放送された『おっさんずラブ』は、2016年12月に放送された単発ドラマを連続ドラマ化したものであったが、深夜23時過ぎの放送ということで初回の視聴率こそ2.9%と低かったものの放送回数を重ねるごとに話題を呼び、最終回（第7話）が5.7%の最高視聴率を記録した⁶⁰。本作は2019年には続編『おっさんずラブ-in the sky-』が制作され、2020年には映画化された（『劇場版 おっさんずラブ～LOVE or DEAD～』）。本作の成功を受けて2019年4月期にはメ〜テレ『his～恋するつもりなんてなかった～』、NHK『腐女子、うっかりゲイに告る。』、テレビ東京『きのう何食べた?』、日本テレビ『俺のスカート、どこ行った?』と、各放送局が同性愛者を主人公とする作品を放送している。この傾向は2020年以降も続き2020年には『三浦部長、本日付けで女性になります。』『黒い画集～証言～』『彼が僕に恋した理由』『30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい』『彼が僕に恋した理由（年末スペシャル）』の5作品が放送されている。

3. 3 コロナ禍以降のBLテレビドラマ

2020年の春以降、世界的な感染症パンデミックにより外出制限が課されるなかで「おうち時間」を過ごすために各種放送・配信メディアで数多くの作品が提供された。この状況下で後述するタイのBLドラマ「2gether（タイ語: เพราะเราคู่กัน）」が世界的なヒットとなり、日本でも本作をはじめとした数多くのタイBLドラマが配信・放送され、また日本のテレビドラマでも多くのBL作品が制作されることとなった。

2021年に放送された『Life 線上の僕ら』（ホームドラマチャンネル、BS11等）は高校生時代に出会った二人の男性の別れと再会を描いた作品であり、フジテレビ『ギヴン』はロックバンドメンバー間の恋愛、同じくフジテレビ『消えた初恋』は男子高校生同士の勘違いから始まる恋愛、毎日放送の『美しい彼』はスクールカーストの頂点と底辺の二人の男性の恋愛を描いた作品であった。同年に放送された『絶対BLになる世界VS絶対BLになりたくない男』と『彼が僕に恋した理由 SEASON 2』はコメディ作品であったが、上記3作品は、同性愛関係（男性同士の恋愛）を正面から取り上げている。

2022年には大阪の毎日放送が深夜ドラマ枠「ドラマシャワー」を設定し、1年限定ではあるが『不幸くんはキスするしかない』『先輩、断じて恋では!』『高良くんと天城くん』『永遠の昨日』『飴色パラドックス』『ジャックフロスト』といった若い女性をターゲットとしたBL作品を放送している⁶¹。このほかにも恋愛感情も性的欲求も抱かない「アロマンティック・アセクシュアル」を取り上げた『恋せぬふたり』、男性同性愛者と女性との偽装結婚を扱った『プリズム』、女性同士の関係を描いた『作りたい女と食べたい女』（いずれもNHK）、サラリーマンの上司と部下の恋愛関係を描いた『オールドファッションカップケーキ』（フジテレビ）、アラサー男性と男子高校生の関係を描いた『みなと商事コインランドリー』（テレビ東京）、同人作家

とアイドルの関係を描いた「壁サー同人作家の猫屋敷くんは承認欲求をこじらせている」(ABCテレビ) など数多くの作品が放送され、男性同性愛者の恋愛のみならず、女性同士の関係や他者に対して恒常的に恋愛感情や性的欲求を抱かない「アセクシュアル」をテーマに据えるなど、社会と同性愛者(無性愛者)とのかかわりにまで目を向けた作品がみられるようになっている。

4. アジア諸国のBLブーム

4. 1 タイBL

2020年、世界が新型コロナウイルスパンデミックの渦中であってステイ・ホームを余儀なくされていた中で、タイのGMMTとHousestories 8によって制作されたBLドラマ「2gether: The Series」が(第5話の公開後に)ツイッター世界トレンド1位を記録するほどの注目を集めた⁶²。

タイでは、2014年に「Love Sick: The Series」がGMMTVで放送されて以来、徐々に注目されるようになっていたが、本格的なBLブームを作ったのは、2016年に公開された『SOTUS the Series』とされている。その後、数多くのBL作品が制作・放送され、世界各国で放送・配信されている。日本では多くがインターネットを通じた配信であるものの、一部の作品はBSや地上波で一般の視聴者向けに放送されている。『2gether: The Series』については、日本ではRakutenTVが2020年7月31日から配信を開始し、WOWOWが同年10月22日から放送開始、地上波では2021年4月からテレビ大阪とメ〜テレで放送されたのをはじめに各地の放送局で放送されている。日本でのBLテレビドラマの作品数が2018年6作品、2019年6作品、2020年5作品、2021年6作品であったものが、2022年に15作品へと急増しているのは、この2getherの成功がひとつの要因であるとも言われている。

ただ、京都産業大学のポンサピタックサンティ・ピヤ(Piya Pongsapitaksanti)教授によると⁶³、タイBLの第1の波(1st Wave)はLove Sickであり、第2の波(2nd Wave)がSOTUS、第3の波(3rd Wave)が2020年の2gether以降であり、25-35歳の独身女性が主なターゲットとされているという。また、タイではBLドラマ(Series Y)は「ゲイ」のドラマではなく、理想化された非現実のものであるため、ターゲットにとって現実から逃げるためのものであるため、社会運動やLGBTQの人権、同性婚などの問題に触れず、純粋な恋愛や純粋な友情関係がテーマとなるという。京都大学の平松秀樹准教授もタイのBLドラマは「様々な障害は描かれるものの、一般的には社会の抑圧等を主題としない」⁶⁴と述べている。

4. 2 中国・台湾BL

中国では厳しいインターネット規制が敷かれているのと同時に、同性愛が「不適切な内容」とされているために出版物や映画、テレビ番組には検閲が行われ、公開することが許されていない。2016年1月29日に人気BL小説を原作とするwebドラマ『ヒロイン-上癮-』⁶⁵が公開されて大きな反響を呼んだが、2016年2月22日に中華人民共和国国家新聞出版广电总局により中国国内での公開が禁止された。この時期までは『不可抗力』⁶⁶、『双程』⁶⁷といったBL作

品が公開されていたが、2018年にBL作家が逮捕⁶⁸されて以降は「ブロマンス」とよばれる男性同士の、プラトニック（性的関係のない）な関係を描いた作品が中心となっている⁶⁹。

一方で、2019年に同性婚が合法化された台湾ではゲイ男性による偽装結婚を描いた『ウェディング・バンケット』⁷⁰をはじめとして、女子高生が自分のセクシャリティに気づく様子を描いた『藍色夏恋(藍色大門)』(2002)や、男女3人の友情と恋を描く『花蓮の夏(盛夏光年)』(2006)、性別適合手術を望む少数民族の青年を描く『阿莉芙』(2017)など、多くの同性愛を主題にした作品が制作されてきた。そうしたシリアスな趣向とは異なった新しい作品群を提供したのが「HIStory」シリーズである。第1シリーズは2017年に『マイ・ヒーロー (MY HERO)』『離れて、離さないで (離我遠一點)』『ボクの悪魔 (著魔)』、第2シリーズ (HIStory2) として2018年に『越界〜君にアタック! (越界)』『是非〜ボクと教授 (是非)』が公開され、以降2022年末までに5シリーズが公開されている。これらの作品はそれ以前とは異なり、日本のBL(やおい)ブームの影響を受けながら、ファンタジーの要素を組み込んだ作風で先述のタイプと同様に若い女性をターゲットとした作品となっている。

4. 3 韓国BL

『梨泰院クラス』、『愛の不時着』が世界的に注目されている韓国ドラマだが、BLという視点で見ると基本的にwebによる配信がほとんどであり、2006年に『後悔なんてしない』⁷¹、2009年に『ただの友達?』⁷²、2017年に『LONG TIME NO SEE』⁷³と『メソッド』⁷⁴といった映画が公開されていたものの、2020年の『君の視線が止まる先に』⁷⁵まではBL作品に対する関心は高くなかった。しかし、同作に加え同じく2020年の『To My Star』⁷⁶、『Wish you〜僕の心の中、君のメロディー』⁷⁷、『Mr.ハート』⁷⁸が大きな反響を呼び、2021年には『カラーラッシュ』⁷⁹、『リュソンビの婚礼式』⁸⁰、2022年には『セマンティック・エラー』⁸¹、『冬すぎて桜』⁸²が制作されるなど、これまでのBL視聴者層以外にも支持を広げている。

近年の韓国BLの特徴のひとつとして、若い女性に人気の芸能人を配役していることが挙げられる。『カラーラッシュ』には人気K-POPグループTHE BOYZのホ・ヒョンジュンが、『冬すぎて桜』には高視聴率オーディション番組で人気を得た「SUPER FIVE」のオク・ジヌク、『Wish you〜僕の心の中、君のメロディー』には日本でも人気のMYNAMEメンバーであるカン・インス、『Mr.ハート』には人気オーディション番組『PRODUCE X 101』出身のイ・セジンが出演している。このように性に対しては閉鎖的で同性愛に対する目も厳しいとされる韓国でもBLがドラマや映画のひとつのジャンルであるという認識が浸透している様子がうかがえる。

5. BLの社会への浸透

「耽美」「やおい」として二次創作の活字メディアを中心に広まったBL作品であった。これらの媒体は関心が高い一部の人々に向けたものであり、同性愛を主題とした作品が広く浸透したとはいえない。1990年代前半の「ゲイブーム」当時は、テレビをはじめとする大手マス・

メディアにおける LGBT の扱いはテレビ映えのする「オカマ」や「おネエ」にとどまっていた。1999 年に発刊された『QUEER JAPAN』創刊号は 90 年代を振り返る特集の中で以下のように評している。

『『ゲイ・ブーム』というのは本当にバブルなんだけど、僕は只中において、高みから『そんなのバブルよ』と批判したり、運動根性から『興味本位の覗き見趣味よ』だとあつたりまえのことを指摘して満足している人たちのことを、内心『ほんとにおめでたい連中』とあきれて見ていた。自分はその流れを利用して、一般メディアから当事者に情報を流し、メディアと世間の同性愛イメージをかえよと必死だった。だって、敵は悪意はほとんどなくて好奇心だけだったんですもの。⁸³」

しかし、2006 年以降おもに実写映画で BL が制作されるようになると、一部に性表現が強く描き出された作品もみられたが、同性愛者をただ面白おかしく描くのではなく、当事者たちの恋愛に対する戸惑いを正面から描く作品が多くみられるようになった。テレビドラマで BL が取り扱われるのはおおよそ 2010 年代以降であったが、2011 年の『IS～男でも女でもない性～』、2013 年の『佐藤家の朝食、鈴木家の夕食』、2015 年『偽装の夫婦』、2017 年の『片想い』、2018 年の『弟の夫』のように、単なる恋愛ドラマとしてではなく、当事者の生き方や家族の受容、社会における位置づけといった観点から性的マイノリティの問題に切り込んだ作品も散見される。まだ十分ではないが、BL が性的マイノリティの抱える諸問題を社会一般に認知・共有させる役割を担っているといえよう。

2018 年の『おっさんずラブ』や 2020 年のタイ BL ドラマ『2gether』の大ヒットを受けて、日本では多くの BL 作品が制作されている。現在はまさに「BL ブーム」の真ただ中といえるだろう。BL 作品の制作数は増加しつつあるが、ポンサピタックサンティ・ピヤ教授や平松秀樹准教授のタイ BL ドラマに対する指摘と同様に、そのほとんどはターゲットである 20 - 30 歳の女性の現実逃避の道具として消費され、社会運動や LGBTQ の人権、同性婚などの問題に触れていない。一部には『恋せぬふたり』や『プリズム』、『作りたい女と食べたい女』といった社会問題を主題に据えた作品もみられるが、特にテレビドラマにおいては若い女性をターゲット（一般に「腐女子」と呼ばれる）とした恋愛を主軸にした作品が多くを占める傾向に変わりはない。BL は拡大を続けながらも、未だ浸透するに至っていない現状がここにある。

¹ 2021 年 4 月 20 日からテレビ大阪、4 月 25 日からテレビ愛知で放送された。

² 毎日放送 (MBS テレビ) 制作により 2022 年 4 月から「ドラマシャワー」として深夜 BL テレビドラマ放送枠が設定された。

³ 『はじめて口を開いたごくフツの「彼ら」たち 普段着のゲイ』「MARCO POLO」(1994 年 2 月号)p.114-120

-
- 4 柿沼瑛子、佐川俊彦 「耽美」から「ボーイズラブ」へ！ 「JUNE」系とは何だったのか」、CYZO WOMAN、(https://www.cyzowoman.com/2011/07/post_3835_1.html) 2011年7月3日
 - 5 藤本由香里「少年愛・JUNE／やおい？BL」(堀あきこ・守如子編『BLの教科書』有斐閣、2020年、p.2-17)による
 - 6 ヤマダトモコ「プレ「やおい・BL」という視点から」(『ユリイカ』vol.39-7「総特集 腐女子マンガ体系」) 2007年、p.123-131) による
 - 7 千田有紀『貴腐人、もしくは汚超腐人の密かな愉しみ』『詩と批評 ユリイカ 特集 BL オン・ザ・ラン!』 青土社、2012年
 - 8 テレビアニメ「パタリロ」は、フジテレビ系列で1982年4月8日～1983年5月13日放送に放送された。原作の漫画は1978年から雑誌「花とゆめ」で連載が開始された。
 - 9 「風と木の詩 SANCTUS-聖なるかな-」(VHS)、監督:安彦良和、原作:竹宮恵子、ポニーキャニオン、1987年
 - 10 三田菱子(著)『鼓ヶ淵』、「カセット June 1」(1988年、マガジン・マガジン) 所収
 - 11 中島丈博原作・監督・脚本『おこげ』配給:東京テアトル、1992年、第2回東京国際レズビアン&ゲイ映画祭にて上映。
 - 12 松岡錠司監督『きらきらひかる』配給日本ヘラルド、1992年
 - 13 橋口亮輔監督・脚本『二十歳の微熱』配給日本ヘラルド、1993年
 - 14 寺内幸太郎監督『BOYS LOVE』(DVD) エースデュース、2006年
 - 15 寺内幸太郎監督『BOYS LOVE 劇場版』(DVD)、ワーナー・ホーム・ビデオ、2007年
 - 16 『タクミくんシリーズ そして春風にささやいて』(2007)、『タクミくんシリーズ2 虹色の硝子』(2009)、『タクミくんシリーズ3 美貌のディテイル』(2010)、『タクミくんシリーズ4 Pure～ピュア～』(2010)、『タクミくんシリーズ5 あの、晴れた青空』(2012)
 - 17 テレビドラマ『アンティーク ～西洋骨董洋菓子店～』は2001年10月8日から12月17日にフジテレビ系列で放送された。漫画原作は、よしながふみ(1999-2002)『西洋骨董洋菓子店』(新書館)であり、2008年には『西洋骨董洋菓子店～アンティーク～』としてフジテレビ系列でテレビアニメ化されている。
 - 18 深川栄洋監督『試験管ベイビー』配給エスピーオー、2008年
 - 19 佐藤徹也監督『《a》 symmetry アシンメトリー』配給:日本出版販売、2008年
 - 20 川野浩司監督『夏休みのような1ヵ月』配給:モブキャスト、2008年
 - 21 金田敬監督『純情』配給ビデオプランニング、2010年
 - 22 金田敬監督『愛の言霊～世界の果てまで～』配給ビデオプランニング、2010年
 - 23 金田敬監督『富士見二丁目交響楽団シリーズ 寒冷前線コンダクター』配給ビデオプランニング、2012年
 - 24 『漫画実写化 どっちもどっち フェロモン系モテ男 VS インテリドS王子』(LOVE PLACE) 2014年
 - 25 天野千尋監督『どうしても触れたくない』配給日本出版販売、2014年
 - 26 横井健司監督『セブンデイズ MONDAY→THURSDAY』配給日本出版販売、2015年
 - 27 湯浅典子監督『宇田川町で待っててよ。』配給日本出版販売、2015年
 - 28 『漫画実写化 飴とキス』(LOVE PLACE) 2015年
 - 29 上條大輔監督『ひだまりが聴こえる』配給日本出版販売、2017年
 - 30 内田英治監督『ダブルミンツ』配給アーク・フィルムズ、スターキャット、2017年
 - 31 谷本佳織監督『花は咲くか』配給東映ビデオ、2018年
 - 32 『ポルノグラファー』フジテレビ (2018)
 - 33 『ポルノグラファー～インディゴの気分～』フジテレビ (2019)
 - 34 三木康一郎監督『劇場版ポルノグラファー～プレイバック～』配給松竹、2021年

- 35 『おっさんずラブ』テレビ朝日 (2018)
- 36 『年の瀬 変愛ドラマ第3夜 おっさんずラブ』テレビ朝日 (2016)
- 37 『おっさんずラブ-in the sky-』テレビ朝日 (2019)
- 38 瑠東東一郎監督『劇場版 おっさんずラブ～LOVE or DEAD～』配給東宝、2019年
- 39 『大叔的愛』ViuTV 2019年
- 40 るるるたまご「美しい彼、チェリまほ…今急増中の「実写化BL」って何から始まったの？」『ちるちる BLニュース』2022年4月23日 (<https://blnews.chil-chil.net/newsDetail/30122/>)
- 41 『his～恋するつもりなんてなかった～』名古屋テレビ (メ～テレ) (2019)
- 42 今泉力哉監督『his～』配給ファントム・フィルム、2020年
- 43 城定秀夫監督『性の劇薬』配給フューチャーコミックス、2020年
- 44 井上竜太監督『リスタートはただいまのあとで』配給キャンター、2020年
- 45 行定勲監督『窮鼠はチーズの夢を見る』配給ファントム・フィルム、2020年
- 46 二宮崇監督『Life：線上の僕ら ディレクターズカット版』配給VAP、2020年
- 47 井上博真監督『LOVE STAGE!!』配給ユナイテッドエンタテインメント、2020年
- 48 よしながふみ原作『きのう何食べた?』テレビ東京 (2019)
- 49 中江和仁監督『劇場版 きんのう何食べた?』配給：東宝、2021年
- 50 キヅナツキ原作『ギヴン』フジテレビ (2019)
- 51 山口ひかる監督『ギヴン』配給アニプレックス、2020年
- 52 キヅナツキ原作 ドラマ『ギヴン』FOD (2021)
- 53 風間太樹監督『チェリまほ THE MOVIE ～30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい～』配給アスミック・エース、2022年
- 54 紺吉原作『絶対BLになる世界 VS 絶対BLになりたくない男』テレ朝チャンネル1 (2021)
- 55 『消えた初恋』テレビ朝日 (2021)
- 56 『美しい彼』毎日放送 (2021)
- 57 酒井麻衣監督『美しい彼 エターナル』配給カルチュア・パブリッシャーズ、2023年
- 58 熊坂出監督『恋い焦れ歌え』配給「恋い焦れ歌え」製作委員会、2022年
- 59 『あすなろ白書』(1993) フジテレビ放送
- 60 「『おっさんずラブ』最終回5.7%で有終の美 初回2%台から急上昇」『ORICON NEWS』(2018年6月4日) <https://www.oricon.co.jp/news/2112842/full/>
- 61 「ドラマシャワー」枠は近畿広域圏の毎日放送 (TBS 系列) と神奈川県テレビ神奈川、群馬県の群馬テレビ、栃木県のとちぎテレビ、埼玉県テレビ埼玉、千葉県千葉テレビ (以上、独立局) で放送され、全国放送は原則的に行われていない。
- 62 タイドラマ『2gether』日本公式サイトによる。(<https://www.c7-2gether.com/>)
- 63 ピヤ・ポンサピタックサンティ 「制作側から見るタイ BL ドラマとその影響」(日本タイ学会 2022 年度研究大会 共通論題 「『タイ BL』を検証する：どのように生まれ、育ち、広まったのか?」)
- 64 平松秀樹「タイ BL ドラマと LGBTQ ドラマ: タイ BL ドラマ (Y ドラマ) を味わうのに LGBTQ 理論の鉤を振るう勿れ」(同上「日本タイ学会」2022)
- 65 原作は柴雞蛋の『你丫上瘾了』。男子高校生同士の同性愛が題材。
- 66 スン・チェンジー (孫承誌) 監督『不可抗力』2016年、中国
- 67 チン・ジェン (秦慎) 監督『双程-A Round Trip To Love-』2016年、中国
- 68 浦上早苗「中国の”おっさんずラブ”は懲役10年。違法ポルノ通報に報奨金1000万円の厳しすぎる性規制」BUSINESS INSIDER (Dec.05.2018) <https://www.businessinsider.jp/post-180727>
- 69 ブロマンス作品の代表的なものとしては、『鎮魂』(2018)、『陳情令』(2019)、『成化十四年～都に咲く秘密～』(2019)、『君、花海棠の紅にあらず』(2020) が挙げられる。

-
- 70 アン・リー (李安) 監督『ウェディング・バンケット (囍宴、The Wedding Banquet)』配給
ヘラルド・エース、1993 年
- 71 イソン・ヒール (李宋喜一) 『後悔なんてしない』配給 CJ エンタテインメント、2006 年
- 72 金趙光秀監督『ただの友達? (친구사이?)』2009 年
- 73 カン・ウ監督『Long Time No See (롱타임노씨)』2017 年
- 74 パン・ウンジン監督『メソッド』配給アットナイン・フィルム、2017 年
- 75 ファン・ダスル/シン・ユ監督『君の視線が止まる先に(너의 시선이 머무는 곳에)』配給
W-STORY、2020 年
- 76 ファン・ダスル監督『To My Star (나의 별에게)』2021 年
- 77 『Wish you〜僕の中の心の中、君のメロディー』Moving Pictures Company & e-motion studio、
- 78 : パク・ソンジェ監督『Mr.ハート (미스터하트)』W-STORY、2020 年
- 79 『カラーラッシュ (컬러 러쉬)』配給 Viki、2021 年
- 80 パク・ゴンホ監督『リュソンビの婚礼式 (류선비의 혼례식)』2021 年
- 81 キム・スジョン監督『セマンティック・エラー (시맨틱 에러)』WATCHA、2022 年
- 82 ユン・ジュノ監督『冬過ぎて春』2022 年
- 83 伏見憲明、小倉東、志木令子、関根信一、溝口彰子 (1999) 「私たちの 90 年代 : 『ヘンタイ』
は時代を創る」『QUEER JAPAN』vol.1、p.71-100

【参考文献】

- 菅野優香 (編著) (2021) 『クィア・シネカ・スタディーズ』晃洋書房
- ジェームズ・ウェルカー (編著) (2019) 『BL が開く扉 変容するアジアのセクシュアリティ
とジェンダー』青土社
- 堀あきこ、守如子 (編) (2020) 『BL の教科書』有斐閣
- 溝口彰子 (2015) 『BL 進化論 ボーイズラブが社会を動かす』
『美術手帳』vol.66 NO.1016 (ボーイズラブ “関係性” の表現をほどく) 2014 年 12 月
- 『ユリイカ』vol.39-17 (総特集 腐女子マンガ体系) 2007 年 6 月 青土社
- 『ユリイカ』vol.39-16 (総特集 BL スタディーズ) 2007 年 12 月 青土社
- 『BE A LIGHT -アジア BL ドラマガイド-』vol.1 2020 年 10 月 コスミック出版
- 『BE A LIGHT -アジア BL ドラマガイド-』vol.2 2021 年 5 月 コスミック出版
- 『玄光社 MOOK はじめての人の BL ガイド』2015 年 10 月 玄光社